安全データシート

N-(ブトキシメチル)アクリルアミド

改訂日：2024-01-24 版番号：1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: N-(ブトキシメチル)アクリルアミド
CB番号	: CB3374401
CAS	: 1852-16-0
同義語	: n-ブトキシメチルアクリルアミド

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 繊維加工用樹脂(耐しわ性、耐洗たく性)、塗料用樹脂、接着剤、自己架橋型ゴム、合成樹脂の各種改質用コモノマー
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	： Chemicalbook
住所	： 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	： 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H23.1.31、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用

健康に対する有害性

引火性液体　区分4

急性毒性(経口)　区分4

急性毒性(経皮)　区分3

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性　区分2B

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)　区分1(全身毒性)

注) 上記で区分の記載がない危険有害性は政府向けガイダンス文書で規定された[分類対象外]、[区分外]または[分類できない]に該当するものであり、後述の該当項目の説明を確認する必要がある。

他の危険有害性

炎および高温のものから遠ざけること。禁煙。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後は手や顔をよく洗うこと。

保護手袋、保護眼鏡を着用すること。

飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。

火災の場合：消火するために粉末、乾燥砂、泡を使用すること。

涼しい所/換気の良い場所で保管すること。

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

---

3. 組成及び成分情報

化学物質 / 混合物の区別：	: 化学物質
化学名又は一般名：	: N-(ブトキシメチル)アクリルアミド
濃度又は濃度範囲：	: >96.0%(T)
CAS RN:	: 1852-16-0
化学式：	: C8H15NO2
官報公示整理番号 化審法：	: (2)-1021, (2)-1070
官報公示整理番号 安衛法：	: 公表化学物質

---

4. 応急措置

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

目に入った場合：

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易にはずせる場合は外して洗うこと。眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。

応急措置をする者の保護：

救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

---

5. 火災時の措置

適切な消火剤：

粉末, 泡, 二酸化炭素

使ってはならない消火剤：

水(火災を拡大し危険な場合がある)

火災時の特定危険有害性：

火災時、温度上昇などにより急激に重合し、容器が破裂する恐れがある。安全な場所から消火すること。燃焼や高温により分解し、有毒なヒュームを発生する恐れがあるので注意する。

特有の消火方法：

消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。関係者以外は安全な場所に退去させる。周辺火災時、容器に水を噴霧して冷却する。安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護：

消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

個人用保護具を着用する。
漏出場所の風上から作業し、風下の人を退避させる。
十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。

環境に対する注意事項：

製品が排水路に排出されないよう注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：

乾燥砂、不燃性吸収剤などに吸収させてふた付きの容器に回収する。
大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。
付着物、回収物などは、関係法規に基づき速やかに処分する。

二次災害の防止策：

付近の着火源、高温体などを速やかに取り除く。
着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
火花を発生しない安全な用具を使用する。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

取扱いは換気のよい場所で行う。適切な保護具を着用する。漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させない。炎および高温のものから遠ざけること。静電気対策を行う。設備などは防爆型を用いる。取扱い後は手や顔などをよく洗う。

注意事項：

できれば、密閉系で取扱う。蒸気やエアゾールが発生する場合には、換気、局所排気を用いる。

安全取扱い注意事項：

皮膚、眼および衣類との接触を避ける。

保管

適切な保管条件：

容器を密栓して換気の良い冷暗所に保管する。酸化剤などの混触危険物質から離して保管する。

安全な容器包装材料：

法令の定めるところに従う。

---

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：

作業者が直接暴露されないように、できるだけ密閉化した設備又は局所排気装置を設ける。取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄用の設備を設ける。

管理濃度：

設定されていない。

保護具

呼吸用保護具：

防毒マスク、簡易防毒マスク等。

手の保護具：

保護手袋。

眼、顔面の保護具：

保護眼鏡。状況に応じ保護面。

皮膚及び身体の保護具：

保護衣。状況に応じ、保護長靴。

---

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液体
色	無色~ごくうすい黄色
臭い	データなし
pH	データなし

-9 ℃ : 有機化合物辞典 (1985)

125-128 ℃ (0.5 mmHg) : 有機化合物辞典 (1985)、125-128 ℃ (3.0E-02 mmHg) : SRC (Access on Sept. 2010)

78 ℃ (試験法不明) : MSDS (東京化成)(Access on Dec. 2010)

データなし

データなし

データなし

0.000704 mmHg (25 ℃) : SRC (Access on Sept. 2010)

データなし

データなし

0.979 (20 ℃/4 ℃) : 有機化合物辞典 (1985) (データなし)

1.16E+004 mg/L (25 ℃ est) : SRC (Access on Sept. 2010)

アセトン、ベンゼン、エタノール、DMF、アクリル系モノマー、可塑剤等に可溶 : 有機化合物辞典 (1985)

logP=0.92 (est) : SRC (Access on Sept. 2010)

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

融点・凝固点

-9 ℃ : 有機化合物辞典 (1985)

沸点、初留点及び沸騰範囲

125-128 ℃ (0.5 mmHg) : 有機化合物辞典 (1985)、125-128 ℃ (3.0E-02 mmHg) : SRC (Access on Sept. 2010)

引火点

78 ℃ (試験法不明) : MSDS (東京化成)(Access on Dec. 2010)

自然発火温度

データなし

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

0.000704 mmHg (25 ℃) : SRC (Access on Sept. 2010)

蒸気密度

データなし

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

0.979 (20 ℃/4 ℃) : 有機化合物辞典 (1985) (データなし)

溶解度

1.16E+004 mg/L (25 ℃ est) : SRC (Access on Sept. 2010)

アセトン、ベンゼン、エタノール、DMF、アクリル系モノマー、可塑剤等に可溶 : 有機化合物辞典 (1985)

オクタノール・水分配係数

logP=0.92 (est) : SRC (Access on Sept. 2010)

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

---

10. 安定性及び反応性

反応性：

情報なし

化学的安定性：

熱、光などの影響や過酸化物などの重合開始剤との接触により重合することがある。

危険有害反応可能性：

特別な反応性は報告されていない。

避けるべき条件：

熱, 裸火, 光

混触危険物質：

酸化剤

危険有害な分解生成物：

二酸化炭素, 一酸化炭素, 窒素酸化物

---

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットLD50値: 999.6 mg/kg、630 mg/kg (いずれもUS EPA/HPV Challenge program (2001))。(GHS分類:区分4)

経皮

ラットLD50値: 866 mg/kg(US EPA/HPV Challenge program (2001))。(GHS分類:区分3)

吸入

吸入(ガス): GHSの定義における液体である。(GHS分類:分類対象外)

吸入(蒸気): データなし。(GHS分類:分類できない)

吸入(ミスト): データなし。(GHS分類:分類できない)

皮膚腐食性・刺激性

ウサギに0.1 mLを閉塞貼付により適用したドレイズ試験で、24時間目に軽微~明瞭な紅斑が見られたが72時間までに消失、無傷の皮膚では浮腫を認めず、皮膚一次刺激指数1.8(US EPA/HPV Challenge program (2001))。(GHS分類:区分外(JIS分類基準))

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギに0.5 mLを適用したドレイズ試験で6匹中3匹に角膜傷害を認め、軽度の刺激性(mild irritant)(US EPA/HPV Challenge program (2001))。(GHS分類:区分2B)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし。(GHS分類:分類できない)

皮膚感作性:データなし。(GHS分類:分類できない)

生殖細胞変異原性

エームス試験で陰性、チャイニーズハムスターの卵巣細胞を用いた染色体異常試験で陽性(US EPA/HPV Challenge program (2001))。 (GHS分類:in vivo 試験のデータがなく分類できない。)

発がん性

データなし。(GHS分類:分類できない)

生殖毒性

データなし。(GHS分類:分類できない)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

ウサギに経皮投与した試験の結果、死亡例で振戦、および肺のうっ血と腎臓の蒼白化が見られ、LD50値は866.3 mg/kg(US EPA/HPV Challenge program (2001))である。ラットを用いた急性経口毒性試験では、大部分の動物が努力性呼吸と不活発を呈し、死亡例の剖検で肺および胃腸の出血、生存例では副腎と腎臓のうっ血が見られ、LD50値は999.6 mg/kg(US EPA/HPV Challenge program (2001))である。(GHS分類:区分1(全身毒性))

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

ラットの42日間混餌投与試験において、高用量群(296~306 mg/kg/day:90日換算値 138~143 mg/kg/day)で軽度の運動失調を示した他には特記すべき影響は報告されていない(US EPA/HPV Challenge program (2001))。(GHS分類:データ不足で分類できない。)

吸引性呼吸器有害性

データなし。(GHS分類:分類できない)

12. 環境影響情報

生態毒性：

魚類：

情報なし

甲殻類：

情報なし

藻類：

情報なし

残留性・分解性：

76 % (by BOD) , 95 % (by TOC) , 100 % (by HPLC) * 既存化学物質安全性点検による判定結果：良分解性

生体蓄積性(BCF)：

情報なし

土壌中の移動性

ｵｸﾀﾉｰﾙ/水分配係数：

情報なし

土壌吸着係数(Koc)：

情報なし

ﾍﾝﾘｰ定数(PaM 3/mol)：

情報なし

オゾン層への有害性：

情報なし

---

13. 廃棄上の注意

適切な保護具を着用する。

地方条例や国内規制に従う。

焼却処理する場合には、アフターバーナー及びスクラバーを備えた焼却炉で焼却する。

空容器を処分する時は、内容物を完全に除去した後に行う。

処理施設がないなどの理由で廃棄できない場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

---

14. 輸送上の注意

国連番号：

該当なし。

国連分類：

国連の分類基準に該当せず。

輸送の特定の安全対策及び条件：

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように

積み込み、荷崩れの防止を確実に行い、法令の定めるところに従う。

---

15. 適用法令

消防法

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)

船舶安全法

毒物類・毒物(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)

---

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA：国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト https://www.mhlw.go.jp

【2】化学物質審査規制法（化審法）https://www.env.go.jp

【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） https://www.chemicoco.env.go.jp

【4】NITE化学物質総合情報提供システム （NITE-CHRIP）https://www.nite.go.jp/

【5】カメオケミカルズ公式サイト http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple

【6】ChemIDplus、ウェブサイト http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト https://echa.europa.eu/

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイトhttp://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイトhttp://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイトhttp://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp

【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト http://www.iarc.fr/

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイトhttp://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト https://www.sigmaaldrich.com/

免責事項：
本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。